

外国人との共生社会を実現するために

外国人の
人権問題

ねらい

在日外国人が抱える不安や悩みを理解し、共生社会の実現に向けて心掛けたいことや自分にできることについて考えます。

活動の進め方

1 外国人の人権問題に関する意識を高めます。

- (1) 順番に自己紹介をします。カードを引き、書いてあるお題について、グループのメンバーにカタカナ語を使わずに伝えます。(※できれば3～4人のグループが良い)
 - ・全員が順番に行き、最後に感想や考えたことを伝え合います。
- (2) 資料1を見ながら、日本に住む外国人が生活で困っていることには、どのようなものがあるのか確認します。

2 ロールプレイを行い、より良いコミュニケーションについて考えます。

- (1) 資料2のエピソードについて、グループ内で役割を決めてロールプレイを行います。(外国人の役割1名、日本人の役割1名、客観的に見る役割1～2名)。
- (2) 以下の手順で話し合います。
 - ① 外国人の立場に立ち、ロールプレイを終えて感じたことや考えたことについて、ワークシートに記入します。記入したことをグループで話し合います。
 - ② ①で話し合った内容から、外国人との円滑なコミュニケーションを図るために、「あなた」ができることは何か、気付いたことをグループで話し合います。
[話合いのポイント] ○聴き方 → 傾聴(視線、うなずき、相づち等)
○伝え方 → 表情、身振り手振り、話す速さ、やさしい日本語

3 エピソードを読んで、どのように行動したらよいかグループで考えます。

- (1) 資料3のエピソードを読みます。外国人Bさんの気持ちについて考えます。
- (2) 以下の手順で話し合います。
 - ① Bさんの気持ちについて考え、ワークシートに簡単に記入します。記入したことを、グループでお互いに発表して意見交換します。
 - ② どうしてこのようなことが起こってしまうのか、グループで話し合います。
 - ③ このエピソードがあなたの近所で起きているとしたら、どのように行動したらよいと思うかワークシートに記入します。記入したことをグループで話し合います。

4 外国人との共生社会の実現のために、自分にできることを考えます。

- (1) 外国人との共生社会の実現に向けて、心掛けたいことや自分にできることについて考え、ワークシートに記入します。
- (2) グループで意見を出し合います。
- (3) グループでの話合いを全体で共有します。
- (4) 参考資料を読みます。(残り時間によって配布のみでも可)

時 間	50～60 分	準備するもの	ワークシート、資料1・3・4（学習者数） 資料2、封筒（グループ数×2）
-----	---------	--------	-----------------------------------------

ファシリテーターの言葉かけ例（留意点）

<活動1>アイスブレイキング 時間：10分

- (1) 始めに、「カタカナ語禁止ゲーム」をします。各グループにカードの入った封筒があります。そこから一人ずつ順番にカードを引きます。カードには「お題」が書かれていますので、その「お題」について、カタカナ語を使わずに他のメンバーに伝えてください。一人1分間で、順番に行います。では、どうぞ。（全員繰り返す）（全員が終わったら）どうでしたか。感想を話し合ってください。カタカナ語が使えないことで、日常生活で思いが伝えられない外国人の気持ちが少し感じられたでしょうか。
- (2) 次に在日外国人の困りごとについてです。皆さんは在日外国人がどのようなことに困っていると思いますか。（数名に聞く）実際はどうでしょうか。（資料1を配布）資料を見てください。うなずける項目はありましたか。

<活動2>メインアクティビティ 時間：10分

- (1) 次に、グループでロールプレイを行います。資料2の「外国人」と「あなた」の役を演じてみましょう。セリフ以外の表情等も意識してください。（見本を見せても良い）外国人役一人、日本人役一人を決めてください。（二人にのみ原稿の封筒を渡す）他の人は、二人のやりとりをよく見てください。
- (2) ①（ワークシートを配布）ロールプレイを終えて、また、見ていた方はやりとりを見てどう感じたか、感想を話してください。（ワークシートに簡単に書いてから話してもよい）例えば、外国人の最後のセリフが「…」になっていますね。ここにはどんな言葉や気持ちが入るのかを考えてみるとよいかもかもしれません。（2分後にグループで意見交換）
- ②それでは、今の話合いから、外国人と円滑なコミュニケーションを図るために「あなた」ができることについて、気付いたことを話し合ってみましょう。（5分後に共有）

<活動3>メインアクティビティ 時間：25分

- (1) 続いて、資料3のエピソードを見てください。ある外国人Bさんのお話です。（読み上げる）では、次に示す三つの観点について、各グループで話し合ってみましょう。
- (2) ①まず、Bさんはどんな気持ちだと思うか、想像して（簡単に）書いてください。（2～3分）では、グループで意見交換してください。（5分）（学習者により記入せず、話合いのみも可）
- ②次に、なぜこのような問題が起きてしまうのか話し合ってください。（5分）各グループで出た話を聞きたいと思います。（予想される反応：外国人への思い込み、コミュニケーション不足など）では、どんな意見が出ましたか。（グループ同士の共有）
- ③最後に、このエピソードがあなたの近所で起きているとします。あなたはどうか行動しようと思いますか。（ワークシートに書く）（2～3分）では、時間を5分とりますので、グループで意見交換してください。（時間に余裕があれば、②と同様に意見を発表してもらおう）

<活動4>ふりかえり 時間：15分

- (1) 今日の活動全体をふりかえり、外国人との共生社会の実現に向けて、心掛けたいことや自分にできることについてワークシートに記入しましょう。（2～3分）
- (2) グループごとに考えを共有し、話し合しましょう。（5分）話し合ったことを最後に全体で共有しますので、発表者を1名決めておいてください。
- (3) 各グループで話し合ったことを共有します。（順番にグループの代表者が発表）ありがとうございました。外国人との共生社会実現のために今日の学びを生かしていきましょう。（時間によって調整する）最後に参考資料を読みましょう。



〔ロールプレイ〕

- 1 外国人Aの立場に立ち、感じたことや考えたことを書きましょう。

〔エピソード〕

- 2 ①人権的な問題点はどこにあると思いますか。(メモ程度で簡単に書きましょう)

グループになり、意見交換しましょう。

話し合いメモ

- ②なぜ、このような問題が起きてしまうのでしょうか。

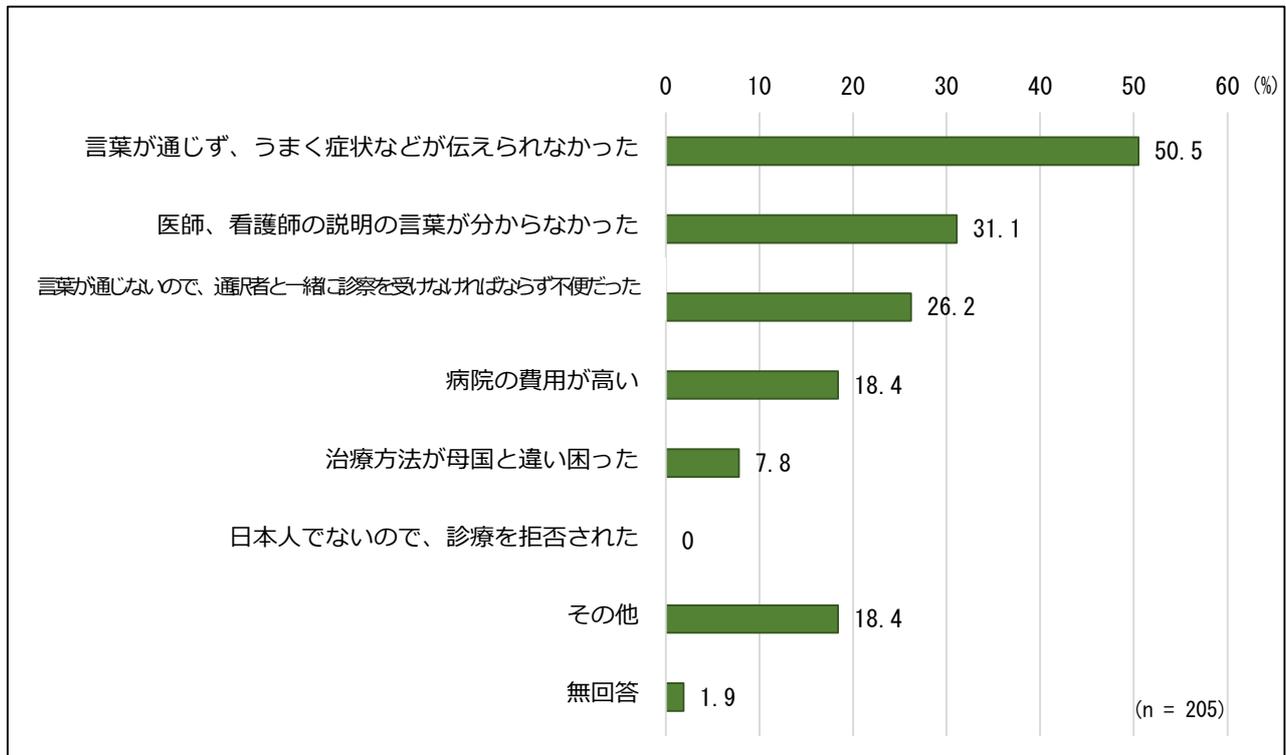
- 3 このエピソードが、あなたの近所で起きているとしたら、近隣住民としてあなたはどのような行動しようと思いますか？

〔ふりかえり〕

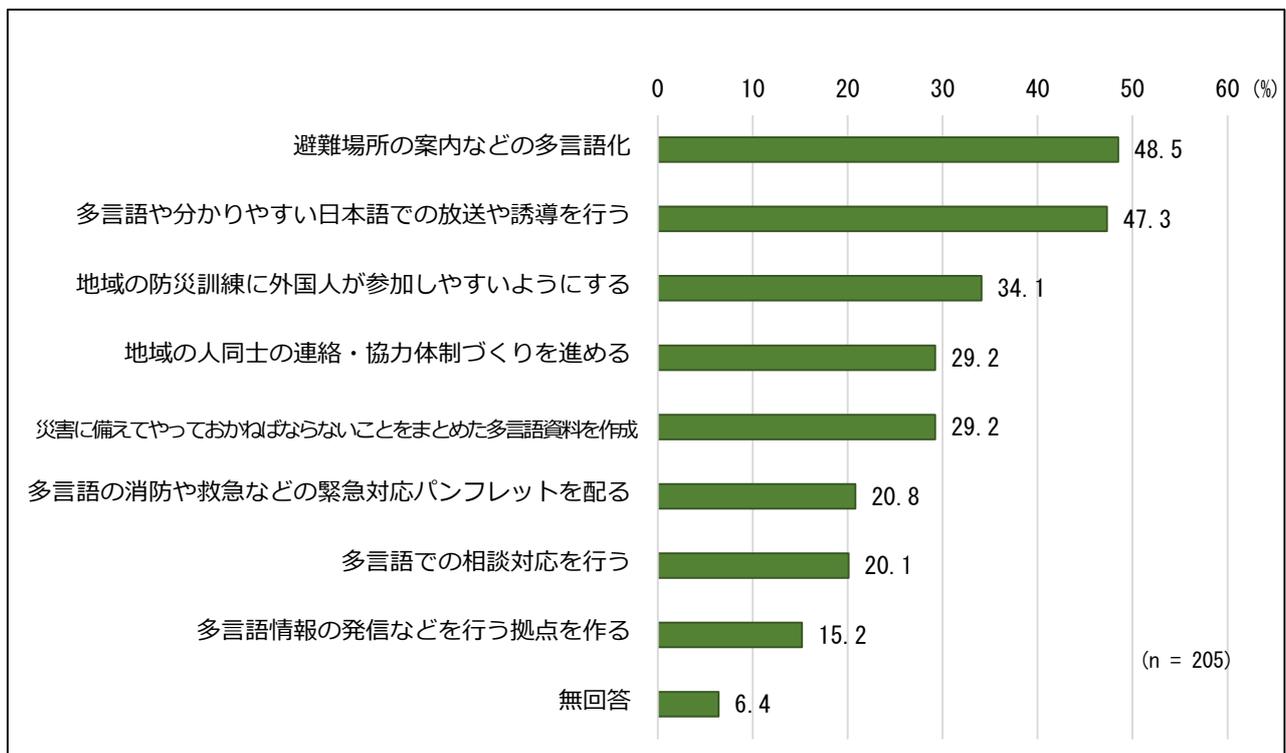
- 4 今日の活動をとおして、外国人との共生社会の実現に向けて、心掛けたことや自分にできることについて、考えたことを書きましょう。

外国人の困りごと

Q (病院等に行って困ったことがあると回答した方対象) 困ったことは何ですか (複数回答)。



Q あなたは、災害対策のために、行政などにどのようなことを望みますか (3つまで)。



栃木県産業労働観光部国際課「令和元(2019)年度地域国際化実態調査報告書」を基に作成

ロールプレイ

あなたの近所に外国人Aさんとその家族が引っ越してきました。
ある日曜日の午後、Aさんがあなたの家にあいさつに来ました。

♪ピンポン (呼び鈴の音)

あなた：はい。どちらさまですか？

外国人：コンニチハ

あなた：(警戒しながらドアを開けて相手を見る) はい。

外国人：(笑顔で) キノウカラ アパート キマシタ A デス

あなた：(目を合わせず小さな声で) …ああ どうも。

外国人：ヨロシク オネガイシマス

あなた：……

外国人：ワカラナイ アナタ キク オーケー？

あなた：(一方的に話す)

ああ、ゴミの出し方は特に注意してくださいね。

きちんと分別して回収するから、曜日も間違えないように確認お願いしますよ。

そういえば、先週の日曜日もアパートに外国人が大勢集まっていたけれど、大人数で夜遅くまで騒いだりすると近所迷惑になりますから、気をつけてくださいね。

分からないことは、うちじゃなくて、大家さんか自治会長さんに聞いたほうがいいですよ。

外国人：…… オーケー ワカリマシタ

エピソード

外国人のBさんは、1か月前に日本へ来ました。知り合いの飲食店で働きながら、いずれは自分の店をもちたいと考えています。現在は、働いているお店の近くのアパートで一人暮らしをしています。

引っ越しの際、アパートの大家さんからゴミの出し方には十分注意するよう言われました。ゴミの出し方を間違えてしまうと、近所に住む人たちとトラブルになることが多いことを知り、母国語表記の注意書きをもらってよく確認しました。Bさんは近所の人たちとすれ違うときにも自分からあいさつをして、早く日本の生活に慣れようとしていました。

ところがある日、分別されていないことが理由で、回収されずに集積場に残されたゴミ袋が、誰かの手によってBさん宅の玄関先に置かれていました。そのゴミはBさんのものではありません。

Bさんはどうしたらよいか、困ってしまいました。



同じ部分に目を向けて

私は中国で生まれ、小学校3年生のときに日本に来ました。日本に来たばかりのときは、日本語が全く分からなかったので、不安ばかりでした。学校では、日本語の勉強をしました。今では、日本語が話せたり、読めたりするようになりました。

私は今、楽しく暮らすことができていますが、日本の社会全体で見ると、外国人ということでは、いやな思いをしている人がいます。国によっての服装、目の色、はだやかみの毛の色などのちがいで、笑われたり、いじめられたりすることがあります。ほんの一部の情報で、その国やその国に住む人たちのことを判断してしまうことがあるからかもしれません。しかし、それだけで決めつけられてしまうのは、とても悲しいことだと思います。

中国のインターネット情報では昔、日本との戦争で中国人がたくさん亡くなったという記事がありました。この記事には、たくさんのコメントがありました。優しい内容のものもあれば、かげきなもの、昔（戦争していた時代）に関係したものなど、いろいろありました。その中で私が気になったものは、「戦争はもう終わっている。それを忘れてみんなで平和に暮らそう。」というコメントです。そのとおりだと思いました。確かにこれまでの歴史では、さまざまなことがあったと思います。戦争をしていた当時だけでなく、今でも苦しい思いをしているかもしれません。しかし、いつまでもその思いを引きずっているわけにはいかないと思います。

私は、日本に来たとき、日本語が話せなかったけれど、みんなが私に声をかけてくれ、一緒に話をしてくれました。私が、少し日本語が話せるようになったとき、友達から、「中国語教えて。」と言ってきてくれました。これまではずっと教えてもらうことばかりだったので、その友達が中国に興味をもってくれたことは、うれしかったです。また、お互いの国について学び合うことができ、私にとってとてもよい経験となりました。

私はこの経験から、差別をなくす第一歩は、相手の国のことを知ることだと思いました。私が友達に教えたことは、あいさつや食べ物など、ほんの少しのことでした。それでも、自分の国のことを、友達と共有できたことがとてもうれしかったことを覚えています。友達も、

「似てるね、ここも一緒だよ。」
と、同じ部分を喜んでいたように思います。

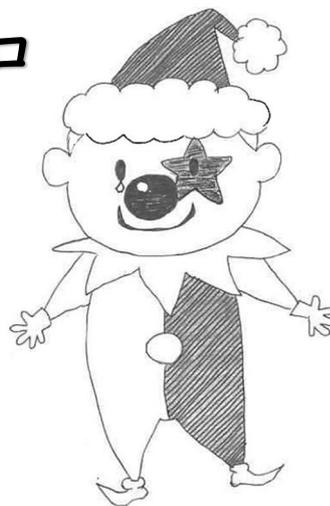
人は違う部分ばかりに目が向いてしまいます。違いを探すのではなく、相手を知ること、そして同じ部分を見つけていくことこそ、差別をなくすことにつながると思っています。

カタカナ語禁止ゲーム

ピザ



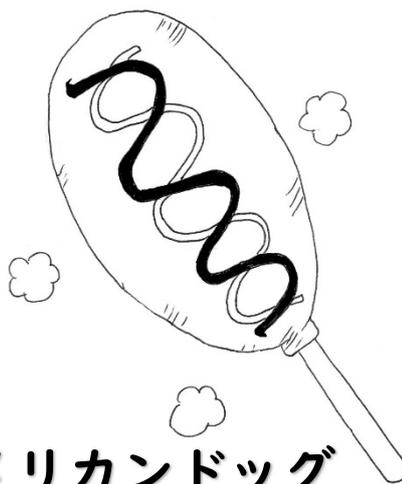
ピエロ



ストレス



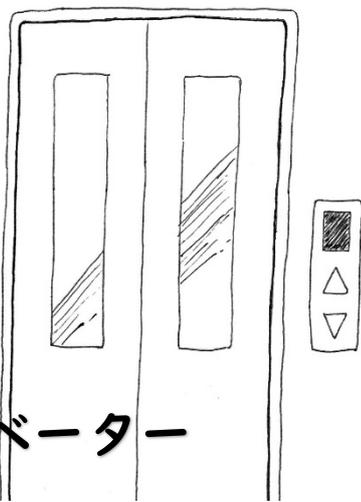
アメリカンドッグ



インタビュー



エレベーター



※破線で切り離し、個別のカード状にして使用します